

事業概要（1/2）【さらべつベーシックインフラサービスの変革による普及事業】

自治体名	北海道更別村	人口	3,132人	事業費	151,184千円
概要	R4年度に整備した高齢者が100歳まで生きがいを持って楽しく過ごせるために必要な基本サービス(更別型ベーシック・インフラサービス)、R5整備したマイナンバーカードでの、地域ポイント・待ち時間のない医療・救急隊の情報取得を実装している。月額サブスクリプションが始まり、更なる会員の獲得を図るため 誰もが利用可能なサービスとして併せて準公共サービス（ひやくわく、医療、地域ポイント、電子申請等）を拡充し利便性の向上と普及拡大を図る。 このため、下記の4つのサービスを構築する。				

更別村が構築したデータ連携基盤に、ID連携デジタル基盤を構築し村内の法人活用、任意の団体、村民、近隣住民の村外者の利用促進を図る。また、連携する地方自治体にもIDを発行し必要なサービスをパッケージで複数自治体で利用できるようサービスを提供する。併せて、サービス利用の軸となる下記4サービス（①②③④）の機能拡充を図る。

①どんぐりスタンプデジタルサービス

地域ポイント制度は手作業の不便さを解消し、既存の紙媒体からデジタルへ一新し村民と村外者の利用を促進、利便性を向上させる。

②埋設データ開放サービス

住宅建設工事等に利用する上下水道管の図面を業者が窓口にて取得するが、その手間と図面発行業務の軽減を図るためGIS情報と連携・公開し、図面を取得可能とすることで、担当課職員の業務負担軽減及び事業者の利便性を向上させる。

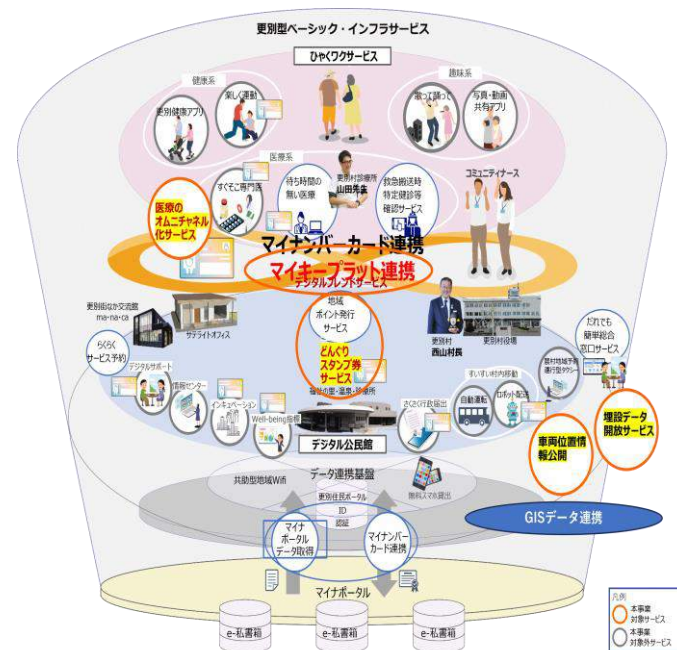
③車両位置情報公開サービス

村民バス乗車までの待ち時間を解消するため、バス車両の移動状況を公開して住民の利便性向上に資する。

④デジタル医療のオムニチャネルコネクトサービス

更別診療所の電話対応が多く、混雑や待ち時間が課題となっているため、AI通話システムの導入で自動で予約まで行う仕組みを構築し、診療現場ではデジタルサポートの充実とSNS等を活用したオムニチャネルコネクトセンターの構築によって利便性の向上に資する。

①どんぐりスタンプデジタルサービスと④デジタル医療のオムニチャネルコネクトサービスでは、既存の村外の利用者がいることからデジタルマイキープラットフォームを構築して村外者の地域ポイントサービスの利用や診療所の新たな利用者の獲得にしているものであり、デジタルフレンド登録（第二住民デジタルカード）の発行で新たなサービス利用者の獲得による地域経済振興に寄与するものである。



更別型ベーシック・インフラサービス

ひやくワクサービス

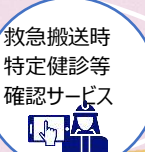
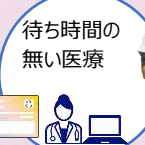
健康系



趣味系



医療系



コミュニティ系



医療の
オムニチャネル
化サービス

マイナンバーカード連携

マイキープラットフォーム連携

デジタルフレンドサービス

更別街なか交流館
ma・na・ca



サテライトオフィス

らくらく
サービス予約

デジタルサポート



情報センター



インキュベーション



Well-being指標



デジタル公民館



データ連携基盤

共助型地域Wifi

更別住民ポータル
ID
認証

さくさく行政届出



すいすい村内移動



車両位置情報公開

埋設データ
開放サービス

だれでも
簡単総合
窓口サービス



GISデータ連携

マイナ
ポータル
データ取得

マイナンバー
カード連携

マイナポータル



凡例

- 本事業
対象サービス
- 本事業
対象外サービス